



©東京マラソン財団

スポーツボランティアプログラム「東京マラソン 2017」

2月26日(日)、東京都庁前から東京駅前・幸福通りまでの42.195kmのコースを走る「東京マラソン 2017」が開催され、本学の学生81人と同法人の都立産業技術高等専門学校(都立産高)の学生15人、合計96人がボランティアとして参加しました。活動内容は、マラソンフィニッシュエリアでの手荷物返却。フィニッシュしたランナーと喜びを分かち合える、非常に楽しくやりがいのある活動でした。

● 事前学習

「東京マラソン 2017」スタート前日の2月25日、本学から参加する活動者全員が集まる事前学習を行いました。最初に行ったのは東京マラソンの概要についての説明。東京マラソンのコースやボランティアの体制の他、活動についての心構えや東京マラソンの理念などが伝えられました。続いて、リーダーを担当する学生から、手荷物返却のボランティアがどういったものなのか、活動を円滑に行うための注意事項等について、写真やスライドを使った丁寧な説明がありました。

最後は、活動する班ごとに分かれての顔合わせと当日の流れについての打ち合わせを実施。班のリーダーは、スポーツボランティアプログラムに参加している学生が担当し、打ち合わせも彼女らが中心となり運営しました。班のメンバーは、お互い初めて会う人同士だったため、自己紹介やアイスブレイクをしながら、和やかにチームづくりを行っていました。

● 「東京マラソン 2017」当日

当日は予報通りの晴天。ボランティアリーダーの学生は紺、メンバーの学生は黄色のウェアとキャップを身に付けて朝9時00分に日比谷野外音楽堂に集合しました。集合後は班ごとに分かれて、リーダーサポートの方からのお話を聞いた後、本日の活動について再確認し、活動場所に向かいました。

活動場所で最初に行ったことは手荷物の並び替え。ボランティアの元に届いた状態では、3時間で走るランナーの手荷物も6時間かけて走るランナーの手荷物も一緒に積み込まれています。それを、ランナーが自己申告している時間ごとに分けて、

素早く返却できるように並び替えました。担当する手荷物は1つの班でおよそ1000。これをしっかり分けきるのは大変だろうと思いましたが、サポートして下さった運送業者の方と共にスムーズに活動でき、およそ20分で仕分けは終了しました。

仕分けを終えて30分ほど経ったあたりから、フィニッシュしたランナーたちが帰ってきました。外国人ランナーも多く、世界的なマラソンであることを感じました。拍手や「完走おめでとうございます!」「ナイスラン!」といった声かけでお迎えし、笑顔で手荷物の返却を行いました。走り終わったランナーは、大変お疲れの様子でしたが、「自己ベストタイム出せました!」と嬉しそうに報告してくれる方や、我々と笑顔でハイタッチを交わす方、感謝を伝えてくれる方などが大勢おり、「ボランティアも東京マラソンの一員!」であることをとても強く実感できました。

手荷物返却の活動は走っているランナーを直接サポートする活動ではありません。しかし、東京マラソンを楽しんだランナーとその楽しさや喜びを共有できる、大変すばらしい活動だったと思います。

● 活動を終えて

活動を終えた学生からは、「メンバーが仲良くなって活動しやすく、とても楽しい1日だった」「ランナーの方にお礼を言ってもらえるとは思っていなかったのが嬉しかった」「自分がマラソンに出た時の恩返しができる」「ランナーの方には“東京マラソン最高!”と感じてもらいたいという思いで活動し、その活動で自分も心から楽しむことができた。まるでテーマパークのキャストのような気持ちだった」といった様々な感想が寄せられました。また、後日、「東京マラソンのボランティアが楽しかったから、他のボランティアもしてみたい」とボランティアセンターを訪れてくれた学生がいました。今回の経験が次へのステップとなったようです。

約3万6千人のランナーに1万人を超えるボランティア、そして観客100万人という、東京をあげて開催された東京マラソンは、今回で11回目。このような経験を積み重ねて、また、他の場面でもボランティアの輪が広がっていけば、2020年やその後にも残るボランティア文化の構築につながるのではないかと期待しています。

【活動報告】 スポーツボランティア プログラム 「東京マラソン 2017」

2017/2/26



©東京マラソン財団

ランナーの手荷物を仕分けしている様子

1つの班がカゴ台車約20台の手荷物を担当。1台につき、およそ50の手荷物が入っています。2人で2台を担当し、協力しながら作業を進めました。声をかけ合う活動が多かったため、自然と仲良くなっていました。



©東京マラソン財団

活動後の振り返りの様子

活動が終わった後は、再び各班で集合し、活動の振り返りを行いました。今回の活動には、ボランティア経験がほとんどない学生や、普段は陸上競技には馴染みのない学生もいましたが、運営スタッフやリーダーサポートなどベテランのボランティアの方々に支えられ、無事終わることができ、それぞれ充実感を得たようです。